

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年5月11日

【四半期会計期間】 第15期第3四半期（自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日）

【会社名】 株式会社ビューティ花壇

【英訳名】 Beauty Kadan Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 三島 美佐夫

【本店の所在の場所】 東京都墨田区横網一丁目2番16号両国国技館前東誠ビル7階

【電話番号】 03 - 5819 - 5670

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 須浪 薫

【最寄りの連絡場所】 東京都墨田区横網一丁目2番16号両国国技館前東誠ビル7階

【電話番号】 03 - 5819 - 5670

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 須浪 薫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第14期 第3四半期 連結累計期間	第15期 第3四半期 連結累計期間	第14期 第3四半期 連結会計期間	第15期 第3四半期 連結会計期間	第14期
会計期間		自 平成21年 7月1日 至 平成22年 3月31日	自 平成22年 7月1日 至 平成23年 3月31日	自 平成22年 1月1日 至 平成22年 3月31日	自 平成23年 1月1日 至 平成23年 3月31日	自 平成21年 7月1日 至 平成22年 6月30日
売上高	(千円)	3,019,476	3,090,689	1,065,852	1,043,562	4,021,182
経常利益	(千円)	133,447	118,583	70,563	43,401	209,261
四半期(当期)純利益	(千円)	53,160	90,637	38,178	21,064	95,386
純資産額	(千円)			487,974	523,286	487,486
総資産額	(千円)			1,320,014	1,532,322	1,504,301
1株当たり純資産額	(円)			19,363.44	21,990.24	20,122.42
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	2,170.64	4,201.09	1,591.05	986.72	3,959.50
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	2,127.70	4,184.85	1,568.89		3,886.48
自己資本比率	(%)			34.3	30.6	29.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	86,670	90,917			214,768
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	38,603	100,266			41,744
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	132,064	46,988			27,621
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)			221,593	399,713	458,947
従業員数	(人)			265	243	266

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第15期第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(人)	243 (113)
---------	-----------

(注) 従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時雇用社員は当第3四半期連結会計期間平均雇用人員（1日8時間換算）を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(人)	187 (102)
---------	-----------

(注) 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であり、臨時雇用社員は当第3四半期会計期間平均雇用人員（1日8時間換算）を（ ）外数で記載しております。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日)	前年同四半期比(%)
生花祭壇事業(千円)	688,028	
生花卸売事業(千円)		
その他(千円)		
合計(千円)	688,028	

- (注) 1. 金額は、総技術費用によっております。
2. 生花卸売事業は、国内外から生花を仕入れ、国内に販売することを主要な業務としており、生産活動は行っていないため、生産実績はありません。また、その他の事業は、生産実績を定義することが困難なため、生産実績は記載しておりません。
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当第3四半期連結会計期間の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日)	前年同四半期比(%)
生花卸売事業(千円)	138,748	
その他(千円)	13,024	
合計(千円)	151,772	

- (注) 1. 金額は、実際仕入価格によっております。なお、生花祭壇事業からの発注に基づく生花の仕入分については除外しております。また、セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

受注から納品までのリードタイムが短いために受注と生産実績は、現状では乖離が見られない状況なので、記載を省略しております。

(4) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日)	前年同四半期比(%)
生花祭壇事業(千円)	823,294	
生花卸売事業(千円)	174,436	
その他(千円)	45,830	
合計(千円)	1,043,562	

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。なお、セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善など持ち直しへ向けた動きがみられるものの、雇用情勢は依然として厳しく、デフレの長期化、東日本大震災の影響など先行き不透明な状況で推移しております。

当社グループの事業を取り巻く環境としましては、ブライダル需要は横ばい、件数が増えているフェーナル需要も単価が下落傾向であるため、花の需要はトータルで横ばいに留まっているものと思われま

す。
当社グループは、中期経営計画の目標達成に向けてグループ一丸となって取り組んでおります。基本方針として、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客内での当社への発注シェアアップによる売上アップ、徹底的な経費削減を引き続き推進してまいりました。

このような状況のもと、平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災の影響により、東北地方での市場の冷え込みによる影響を一部受け、当社グループの売上高は、1,043,562千円（前年同四半期比2.1%減）となりました。また、中期経営計画の目標達成のための先行投資として生花祭壇事業の費用が一時的に増加したこと等により売上総利益については、210,623千円（前年同四半期比10.5%減）となりました。販売費及び一般管理費については、168,277千円（前年同四半期比2%増）となりました。その結果、営業利益は42,345千円（前年同四半期比39.8%減）となりました。また、経常利益は43,401千円（前年同四半期比38.5%減）、四半期純利益は21,064千円（前年同四半期比44.8%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、823,294千円となりました。当事業が主として属する葬祭業界におきましては、消費者の支出は景気動向の影響は直接的には受けにくいといわれておりますが、経済産業省「特定サービス産業動態統計速報」（サンプル調査）によると、葬儀業の平成23年1月から平成23年2月までの売上高は91,307百万円（前年同期比4.8%増）、件数は64,000件（前年同期比7.3%増）となっております。当社の当第3四半期連結会計期間における国内の生花祭壇の受注件数におきましては、前年より133件増えて4,750件となりました。このような状況の中、前述の全社基本方針を徹底してまいりましたが、東日本大震災の影響により仙台支社の主たる商圏のお取引先様が震災の影響を受け、約1か月通常営業を行うことが出来ず、その影響を受けました。営業利益については109,540千円となりました。

(生花卸売事業)

生花卸売事業の売上高は174,436千円となりました。当事業の主要商品である菊花が例年より安値で推移したこと、また、通常3月はお彼岸需要により当事業において、売上が期待できる月でありましたが、先の東日本大震災による影響でお彼岸需要が大きく減少いたしました。その結果、当社の当第3四半期連結会計期間の切花取扱数量は前年同期比で16.6%減、金額では前年同期比16.2%減となっております。その一方で、台湾から輸入している胡蝶蘭の販売が順調に推移したことにより、営業利益は32,526千円となりました。

(その他)

その他事業は、主に連結子会社の株式会社クラウンガーデネックスにおけるブライダル事業であります。売上高は45,830千円、営業損失は4,601千円となりました。生花仕様の見直し、生花仕入れルートの多様化による仕入原価の低減と経費削減を推進したことにより収益の改善がみられました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ28,021千円増加し、1,532,322千円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ28,168千円減少し、914,624千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少と受取手形及び売掛金の増加によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ56,190千円増加し、617,698千円となりました。これは主に、差入保証金の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ7,778千円減少し、1,009,036千円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ40,426千円減少し、667,940千円となりました。これは主に、短期借入金と未払法人税等の減少によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ32,648千円増加し、341,095千円となりました。これは主に、社債の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ35,799千円増加し、523,286千円となりました。これは主に、利益剰余金の増加及び自己株式の取得による減少によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べ59,234千円減少し、399,713千円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間において、営業活動の結果獲得した資金は16,834千円（前年同四半期は49,218千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益40,566千円の計上の一方で、法人税等の支払額33,492千円によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間において、投資活動の結果使用した資金は83,555千円（前年同四半期は59,395千円の獲得）となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出40,458千円と差入保証金の差入による支出47,551千円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間において、財務活動の結果獲得した資金は13,207千円（前年同四半期は74,488千円の使用）となりました。これは主に、短期借入金の純減59,200千円と社債の純増80,000千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画した重要な設備の新設、除却等について重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	88,000
計	88,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年5月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	25,380	25,380	東京証券取引所 (マザーズ)	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	25,380	25,380		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年1月1日～ 平成23年3月31日	-	25,380	-	213,240	-	133,240

(6) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成22年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,032		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,348	21,348	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
発行済株式総数	25,380		
総株主の議決権		21,348	

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ビューティ花壇	東京都墨田区横網 1丁目2番16号	4,032		4,032	15.89
計		4,032		4,032	15.89

(注) 上記「自己株式等」は、全て当社保有の自己株式であります。

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成23年 1月	2月	3月
最高(円)	35,600	37,100	39,000	36,500	37,800	39,700	44,750	45,900	44,450
最低(円)	30,950	31,600	35,300	34,500	35,050	35,800	39,000	41,500	33,450

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	事業開発本部長兼美麗花壇 股? 有限公司董事長	渡邊 一功	平成23年4月8日

(2) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 (経営企画室長兼業務本部長 兼事業開発本部長)	常務取締役 (経営企画室長 兼業務本部長)	舛田 正一	平成23年4月8日

第5 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成23年1月1日から平成23年3月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年7月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成22年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受け、また、当第3四半期連結会計期間（平成23年1月1日から平成23年3月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年7月1日から平成23年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については監査法人よつば総合事務所による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第14期連結会計年度

有限責任監査法人トーマツ

第15期第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間

監査法人よつば総合事務所

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	399,713	458,947
受取手形及び売掛金	417,158	387,147
商品	8,861	6,318
仕掛品	465	463
原材料及び貯蔵品	12,450	14,314
その他	79,383	78,762
貸倒引当金	3,408	3,160
流動資産合計	914,624	942,793
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	114,032	121,908
減価償却累計額	54,319	54,627
建物及び構築物(純額)	59,712	67,280
工具、器具及び備品	167,996	171,963
減価償却累計額	110,602	100,145
工具、器具及び備品(純額)	57,394	71,818
土地	122,842	122,842
その他	58,235	6,061
減価償却累計額	5,269	5,028
その他(純額)	52,966	1,032
有形固定資産合計	292,916	262,973
無形固定資産	19,205	31,003
投資その他の資産		
差入保証金	165,944	140,906
その他	159,169	144,810
貸倒引当金	19,537	18,185
投資その他の資産合計	305,577	267,532
固定資産合計	617,698	561,508
資産合計	1,532,322	1,504,301

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	63,893	82,626
短期借入金	190,400	231,700
未払法人税等	22,444	54,398
賞与引当金	24,525	-
その他	366,677	339,642
流動負債合計	667,940	708,367
固定負債		
社債	100,000	65,000
長期借入金	203,674	202,000
退職給付引当金	13,615	11,634
その他	23,806	29,813
固定負債合計	341,095	308,447
負債合計	1,009,036	1,016,815
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	211,880
資本剰余金	133,240	131,880
利益剰余金	273,897	212,000
自己株式	142,851	104,687
株主資本合計	477,525	451,072
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	8,078	6,206
評価・換算差額等合計	8,078	6,206
少数株主持分	53,838	42,619
純資産合計	523,286	487,486
負債純資産合計	1,532,322	1,504,301

(2)【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)
売上高	3,019,476	3,090,689
売上原価	2,331,236	2,435,922
売上総利益	688,240	654,767
販売費及び一般管理費	¹ 560,225	¹ 535,089
営業利益	128,014	119,678
営業外収益		
受取利息	1,034	394
受取地代家賃	8,250	8,224
その他	6,522	3,957
営業外収益合計	15,807	12,576
営業外費用		
支払利息	5,598	8,173
不動産賃貸費用	2,996	3,140
その他	1,779	2,356
営業外費用合計	10,374	13,670
経常利益	133,447	118,583
特別利益		
固定資産売却益	-	² 1,501
償却債権取立益	339	-
移転補償金	-	³ 40,271
特別利益合計	339	41,772
特別損失		
固定資産除却損	-	⁴ 7,656
前期損益修正損	⁵ 15,558	-
リース解約損	7,129	-
その他	1,325	6,548
特別損失合計	24,014	14,204
税金等調整前四半期純利益	109,772	146,152
法人税、住民税及び事業税	53,434	55,200
法人税等調整額	5,662	12,776
法人税等合計	47,772	42,423
少数株主損益調整前四半期純利益	-	103,728
少数株主利益	8,839	13,090
四半期純利益	53,160	90,637

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
売上高	1,065,852	1,043,562
売上原価	830,521	832,939
売上総利益	235,331	210,623
販売費及び一般管理費	¹ 165,017	¹ 168,277
営業利益	70,313	42,345
営業外収益		
受取利息	204	145
受取地代家賃	2,772	2,810
その他	1,235	2,810
営業外収益合計	4,211	5,766
営業外費用		
支払利息	2,330	2,590
社債発行費	-	1,059
不動産賃貸費用	1,002	803
その他	628	256
営業外費用合計	3,961	4,710
経常利益	70,563	43,401
特別利益		
償却債権取立益	44	-
特別利益合計	44	-
特別損失		
固定資産除却損	-	² 1,204
災害による損失	-	³ 1,484
リース解約損	2,015	-
その他	124	146
特別損失合計	2,139	2,835
税金等調整前四半期純利益	68,468	40,566
法人税、住民税及び事業税	35,757	28,510
法人税等調整額	10,112	10,640
法人税等合計	25,645	17,869
少数株主損益調整前四半期純利益	-	22,696
少数株主利益	4,644	1,631
四半期純利益	38,178	21,064

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	109,772	146,152
減価償却費	42,723	39,146
差入保証金償却額	-	2,522
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	2,347
長期前払費用償却額	5,928	8,347
貸倒引当金の増減額（は減少）	6,772	1,621
賞与引当金の増減額（は減少）	22,301	24,525
退職給付引当金の増減額（は減少）	847	1,981
株主優待引当金の増減額（は減少）	3,500	-
受取利息	1,034	394
受取賃貸料	8,250	8,224
助成金収入	2,130	2,188
支払利息	5,598	8,173
不動産賃貸費用	2,996	3,140
固定資産除売却損益（は益）	-	6,154
売上債権の増減額（は増加）	88,539	31,690
たな卸資産の増減額（は増加）	8,103	681
その他の資産の増減額（は増加）	2,270	3,695
投資その他の資産の増減額（は増加）	8,378	1,415
仕入債務の増減額（は減少）	27,963	17,875
その他の負債の増減額（は減少）	4,636	12,243
その他	2,973	924
小計	101,033	174,020
利息の受取額	1,527	394
賃貸料の受取額	6,394	6,224
助成金の受取額	2,130	2,188
利息の支払額	5,748	7,751
法人税等の支払額	18,666	84,158
営業活動によるキャッシュ・フロー	86,670	90,917

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	60,000	-
貸付けによる支出	6,084	1,620
貸付金の回収による収入	5,122	3,125
有形及び無形固定資産の取得による支出	20,257	56,343
有形及び無形固定資産の売却による収入	-	1,945
投資有価証券の取得による支出	2,000	-
差入保証金の差入による支出	7,777	56,508
差入保証金の回収による収入	9,600	26,604
保険積立金の積立による支出	-	17,459
投資その他の資産の増減額（は増加）	-	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	38,603	100,266
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	662,241	300,000
短期借入金の返済による支出	759,841	341,300
長期借入れによる収入	200,000	215,000
長期借入金の返済による支出	65,694	205,860
社債の発行による収入	-	100,000
社債の償還による支出	105,000	45,000
株式の発行による収入	4,380	2,720
自己株式の取得による支出	52,968	38,164
配当金の支払額	8,487	28,740
その他	6,693	5,643
財務活動によるキャッシュ・フロー	132,064	46,988
現金及び現金同等物に係る換算差額	400	2,896
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	7,190	59,234
現金及び現金同等物の期首残高	228,784	458,947
現金及び現金同等物の四半期末残高	221,593	399,713

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 資産除去債務に関する会計基準の適用</p> <p>第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益が2,486千円減少し、税金等調整前四半期純利益が4,834千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始により、投資その他の資産の「差入保証金」が4,834千円減少しております。</p>

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)	
(四半期連結損益計算書)	
1.	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。
2.	前第3四半期連結累計期間において、特別損失の「その他」に含めておりました「固定資産除却損」は、特別損失総額の100分の20を超えたため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記することとしております。なお、前第3四半期連結累計期間の特別損失の「その他」に含まれる「固定資産除却損」は1,053千円であります。

当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日)	
(四半期連結損益計算書)	
1.	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。
2.	前第3四半期連結会計期間において、特別損失の「その他」に含めておりました「固定資産除却損」は、特別損失総額の100分の20を超えたため、当第3四半期連結会計期間では区分掲記することとしております。なお、前第3四半期連結会計期間の特別損失の「その他」に含まれる「固定資産除却損」は124千円であります。

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)
1 固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)
該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末 (平成22年6月30日)														
<p>1 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく当第3四半期連結会計期間末における借入未実行残高は、次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>当座貸越極度額</td> <td>450,000千円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td>450,000千円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額	450,000千円	借入実行残高	千円	差引額	450,000千円	<p>1 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約及び株式会社三菱東京UFJ銀行と売掛活用ファシリティ契約を締結しております。これら契約に基づく当連結会計年度末における借入未実行残高は、次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>当座貸越極度額</td> <td>550,000千円</td> </tr> <tr> <td>ファシリティ契約</td> <td>50,000千円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td>50,000千円</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td>550,000千円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額	550,000千円	ファシリティ契約	50,000千円	借入実行残高	50,000千円	差引額	550,000千円
当座貸越極度額	450,000千円														
借入実行残高	千円														
差引額	450,000千円														
当座貸越極度額	550,000千円														
ファシリティ契約	50,000千円														
借入実行残高	50,000千円														
差引額	550,000千円														

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)																												
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主なもの</p> <table> <tr> <td>給料手当</td> <td>156,526千円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>2,085千円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td>7,025千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td>272千円</td> </tr> </table>	給料手当	156,526千円	賞与引当金繰入額	2,085千円	貸倒引当金繰入額	7,025千円	退職給付引当金繰入額	272千円	<p>1 販売費及び一般管理費のうち主なもの</p> <table> <tr> <td>給料手当</td> <td>157,451千円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>1,496千円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td>1,621千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td>591千円</td> </tr> </table> <p>2 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>1,501千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,501千円</td> </tr> </table> <p>3 移転補償金は、本社移転に伴う補償金であります。</p> <p>4 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>6,405千円</td> </tr> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>163千円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>1,087千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7,656千円</td> </tr> </table>	給料手当	157,451千円	賞与引当金繰入額	1,496千円	貸倒引当金繰入額	1,621千円	退職給付引当金繰入額	591千円	車両運搬具	1,501千円	計	1,501千円	建物及び構築物	6,405千円	車両運搬具	163千円	工具、器具及び備品	1,087千円	計	7,656千円
給料手当	156,526千円																												
賞与引当金繰入額	2,085千円																												
貸倒引当金繰入額	7,025千円																												
退職給付引当金繰入額	272千円																												
給料手当	157,451千円																												
賞与引当金繰入額	1,496千円																												
貸倒引当金繰入額	1,621千円																												
退職給付引当金繰入額	591千円																												
車両運搬具	1,501千円																												
計	1,501千円																												
建物及び構築物	6,405千円																												
車両運搬具	163千円																												
工具、器具及び備品	1,087千円																												
計	7,656千円																												
<p>5 過年度における従業員の休日未消化分について、精算を行ったものであります。</p>																													

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)																		
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主なもの</p> <table> <tr> <td>給料手当</td> <td>40,128千円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>1,048千円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td>1,701千円</td> </tr> </table>	給料手当	40,128千円	賞与引当金繰入額	1,048千円	貸倒引当金繰入額	1,701千円	<p>1 販売費及び一般管理費のうち主なもの</p> <table> <tr> <td>給料手当</td> <td>49,183千円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>1,215千円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td>1,449千円</td> </tr> </table> <p>2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>129千円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>1,075千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,204千円</td> </tr> </table> <p>3 災害による損失は、平成23年3月に発生しました東北地方太平洋沖地震における当社仙台支社への支援物資に係る費用であります。</p>	給料手当	49,183千円	賞与引当金繰入額	1,215千円	貸倒引当金繰入額	1,449千円	車両運搬具	129千円	工具、器具及び備品	1,075千円	計	1,204千円
給料手当	40,128千円																		
賞与引当金繰入額	1,048千円																		
貸倒引当金繰入額	1,701千円																		
給料手当	49,183千円																		
賞与引当金繰入額	1,215千円																		
貸倒引当金繰入額	1,449千円																		
車両運搬具	129千円																		
工具、器具及び備品	1,075千円																		
計	1,204千円																		

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在) (千円)	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年3月31日現在) (千円)
現金及び預金勘定 221,593	現金及び預金勘定 399,713
現金及び現金同等物 221,593	現金及び現金同等物 399,713

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年3月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年7月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数
普通株式 25,380株
2. 自己株式の種類及び株式数
普通株式 4,032株
3. 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。
4. 配当に関する事項
配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年9月24日 定時株主総会	普通株式	28,740	1,300	平成22年6月30日	平成22年9月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成22年1月1日至平成22年3月31日)

	生花祭壇 事業 (千円)	生花卸売 事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	794,636	210,468	60,747	1,065,852		1,065,852
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高		246,448	3,110	249,558	249,558	
計	794,636	456,916	63,857	1,315,411	249,558	1,065,852
営業利益(又は営業損失())	117,680	42,394	6,134	153,940	83,627	70,313

前第3四半期連結累計期間(自平成21年7月1日至平成22年3月31日)

	生花祭壇 事業 (千円)	生花卸売 事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	2,286,340	586,724	146,411	3,019,476		3,019,476
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,493	692,739	11,943	710,176	710,176	
計	2,291,833	1,279,463	158,355	3,729,653	710,176	3,019,476
営業利益(又は営業損失())	345,020	113,434	10,612	447,842	319,827	128,014

(注) 1. 事業区分の方法

事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分に属する主要な製品

(1) 生花祭壇事業.....生花祭壇、供花

(2) 生花卸売事業.....菊、胡蝶蘭などの生花

(3) その他ブライダル、ギフトなどの祝事に関する生花、園芸装飾等の緑化事業商品

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自平成22年1月1日至平成22年3月31日）

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,025,286	40,566	1,065,852		1,065,852
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	2,499	39,265	41,764	41,764	
計	1,027,785	79,831	1,107,617	41,764	1,065,852
営業利益	140,516	9,170	149,686	79,373	70,313

前第3四半期連結累計期間（自平成21年7月1日至平成22年3月31日）

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,907,402	112,074	3,019,476		3,019,476
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	8,000	88,178	96,178	96,178	
計	2,915,402	200,252	3,115,655	96,178	3,019,476
営業利益	405,312	37,005	442,317	314,302	128,014

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 日本以外の区分に属する主な国又は地域
アジア…… 台湾

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自平成22年1月1日至平成22年3月31日）及び前第3四半期連結累計期間（自平成21年7月1日至平成22年3月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分決定を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、冠婚葬祭の生花に係わる事業活動を展開しております。その中で、「生花祭壇事業」及び「生花卸売事業」の2つを報告セグメントとしております。

各事業の概要は下記のとおりであります。

生花祭壇事業：生花祭壇、供花等、葬儀における生花を使用した商品を作成して販売する事業

生花卸売事業：自社の祭壇事業で使用する生花の仕入及び葬儀関連会社の生花部や生花小売店に対して、生花を販売する事業

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇事業	生花卸売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,351,705	577,230	2,928,935	161,754	3,090,689		3,090,689
セグメント間の内部売上高又は振替高		680,946	680,946	10,808	691,755	691,755	
計	2,351,705	1,258,176	3,609,881	172,563	3,782,445	691,755	3,090,689
セグメント利益又は損失 ()	306,011	137,547	443,558	1,643	441,915	322,236	119,678

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ブライダル事業等であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 322,236千円には、セグメント間取引消去6,669千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 328,906千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇事業	生花卸売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	823,294	174,436	997,731	45,830	1,043,562		1,043,562
セグメント間の内部売上高又は振替高		220,649	220,649	5,013	225,662	225,662	
計	823,294	395,085	1,218,380	50,844	1,269,224	225,662	1,043,562
セグメント利益又は損失 ()	109,540	32,526	142,066	4,601	137,465	95,120	42,345

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ブライダル事業等であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 95,120千円には、セグメント間取引消去2,089千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 97,209千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(金融商品関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年3月31日)
著しい変動がないため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)		前連結会計年度末 (平成22年6月30日)	
1株当たり純資産額	21,990.24円	1株当たり純資産額	20,122.42円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	2,170.64円	1株当たり四半期純利益金額	4,201.09円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	2,127.70円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	4,184.85円

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(千円)	53,160	90,637
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	53,160	90,637
期中平均株式数(株)	24,490	21,574
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	494	83
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	1,591.05円	1株当たり四半期純利益金額	986.72円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	1,568.89円	なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(千円)	38,178	21,064
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	38,178	21,064
期中平均株式数(株)	23,995	21,348
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	338	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年5月3日

株式会社ビューティ花壇
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 川 正 行 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 下 条 修 司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティ花壇の平成21年7月1日から平成22年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成22年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティ花壇及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年5月11日

株式会社ビューティ花壇
取締役会 御中

監査法人よつば総合事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 神門 剛 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 麻利 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティ花壇の平成22年7月1日から平成23年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年1月1日から平成23年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年7月1日から平成23年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティ花壇及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。